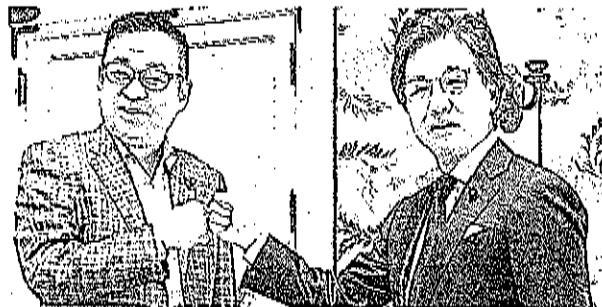


立憲・維新の「共闘」 実効性は

合意内容は限定的 選挙協力も不透明



「この共闘は政権をどう目指すか、パートナーとはり得るかを真剣に考えるきっかけにしなければならない」。安住淳議会対策委員長は21日、維新的遠藤敬園対委員長（右）「共闘」を確認した会談の後、記者団に述べ、成果次第では選挙

▼3面参照

「足元を見られた」自民に吉

協力も完全に排除しないとの考え方を含ませた。

これまで立憲と維新は、互いに批判を繰り返してきた。立憲は支持団体の連合が維新に対する警戒感を抱いて「これより」などを踏まえ、距離を置いた。憲法を

めぐつても、維新は改憲論議に積極的な姿勢を示す一方、立憲は拙速な改憲に懐重な姿勢。原発再稼働のあり方についても論争があり、今回合意した項目には含まれなかつた。

それでも「共闘」にたどりついた背景には、両党とも、国会で過半数を占める与党に「次の一手」が見いだされた。国際的な「共闘」に合意後、安住淳議会対策委員長（右）と日本維新的会の遠藤敬園対委員長（左）

会での「共闘」は、世界平和統一家庭連合（日統一教会）をめぐる問題などに対する岸田政権への逆風を見据え、実現した。しかし、合意内容は限定的で、原発再稼働など、両党に属するある政策は盛り込まれず、選挙協力まで発展するかどうかは見通せない。

だせない事情があった。

立憲が「共闘」する相手としてきた国民民主党政権は、ともに国民民主党政権を源流とするが、も「与党寄り」の動きを強めている。維新もまた、気脈を通じてきた菅義偉前首相が岸田政権となって表舞台から消え、政権とのパイプが細くなつた。こうした状況のなか、存在感を示そうとする両党の思惑が重なつた。

今回の合意について、両党内では肯定的な見方が強化。ただ、政権の枠組み作りに関わる選挙協力といつた「共闘」まで一気に進むかは懷疑的だ。立憲内には「野党の大義化して政権交代をめざすこと」として、選挙協力への期待もあるが、維新共同代表の吉村洋文・大阪府知事は21日の会見で、立憲との選挙協力の可能性について「ないと思います」と退けた。

一方、今回の動きに自民党からは「維新は与党みたいなものだったのに、自民がこの体たらくだから足元を見られた」（閣僚経験者）との声も出している。

国際的な「共闘」に合意後、安住淳議会対策委員長（右）と日本維新的会の遠藤敬園対委員長（左）

だせない事情があった。

立憲が「共闘」する相手としてきた国民民主党政権は、ともに国民民主党政権を源流とするが、も「与党寄り」の動きを強めている。維新もまた、気脈を通じてきた菅義偉前首相が岸田政権となって表舞台から消え、政権とのパイプが細くなつた。こうした状況のなか、存在感を示そうとする両党の思惑が重なつた。

今回の合意について、両党内では肯定的な見方が強化。ただ、政権の枠組み作りに関わる選挙協力といつた「共闘」まで一気に進むかは懷疑的だ。立憲内には「野党の大義化して政権交代をめざすこと」として、選挙協力への期待もあるが、維新共同代表の吉村洋文・大阪府知事は21日の会見で、立憲との選挙協力の可能性について「ないと思います」と退けた。

一方、今回の動きに自民党からは「維新は与党みたいなものだったのに、自民がこの体たらくだから足元を見られた」（閣僚経験者）との声も出している。